

# 大学での核融合研究の動向調査

核融合ネットワーク

## ○ 対象と方法:

核融合科学ネットワークと核融合炉エネットワークのメンバーを対象に、メールによるアンケート調査を実施(2006年12月実施)。

## ○ 調査項目:

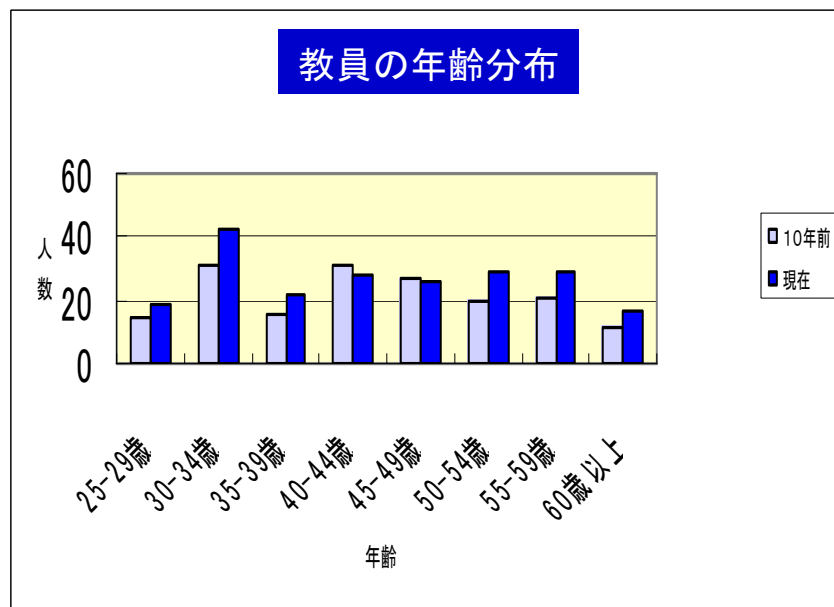
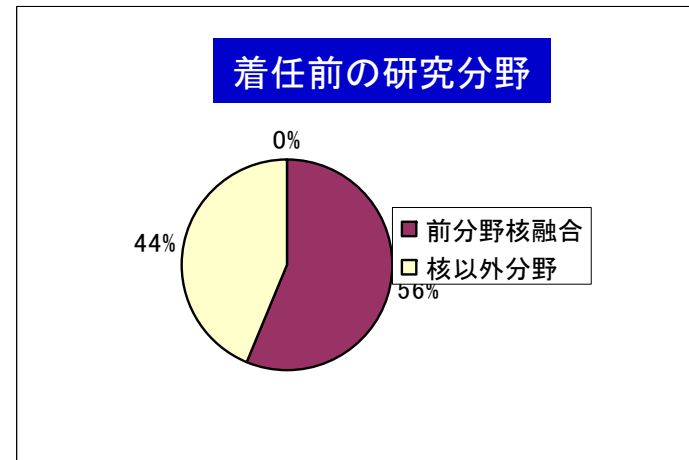
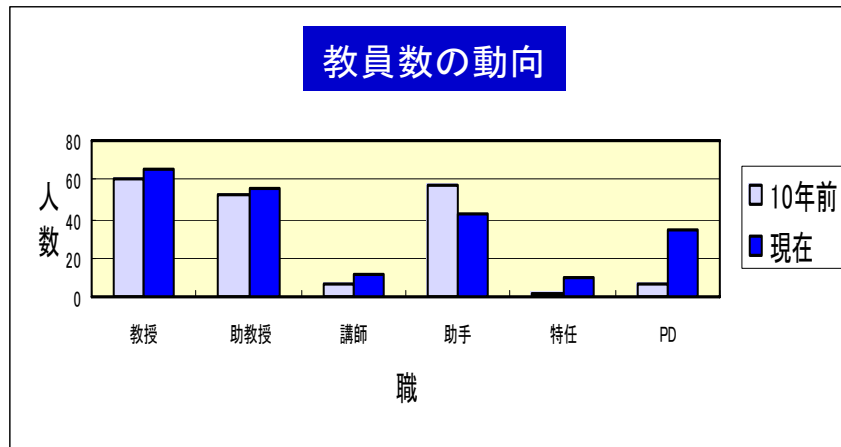
- (1)核融合関連講座数, 教員数, 学生数
- (2)博士および修士取得者の動向(卒業数, 就職先)
- (3)研究論文・学会発表の主題のカテゴリー
- (4)核融合に関連する教育プログラム(講義や演習, 実験など)の実態
- (5)核融合関連分野の採用実態(研究職, 技術職など幅広く)

## ○ 回答率:

大学所属の核融合ネットワーク会員総数:333人      回答者:118人 (回答率:35%)

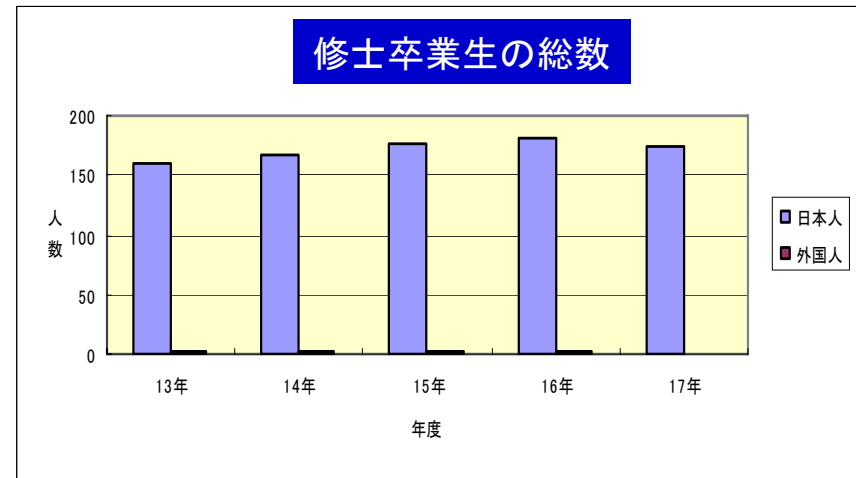
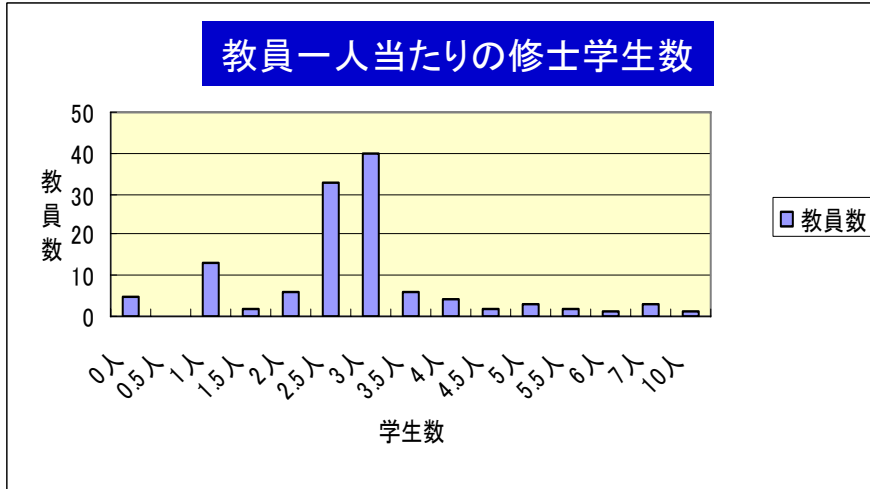
- 核融合科学研究所と日本原子力研究開発機構に関しては、採用実態動向調査を実施。

# 大学の教員数と年齢分布

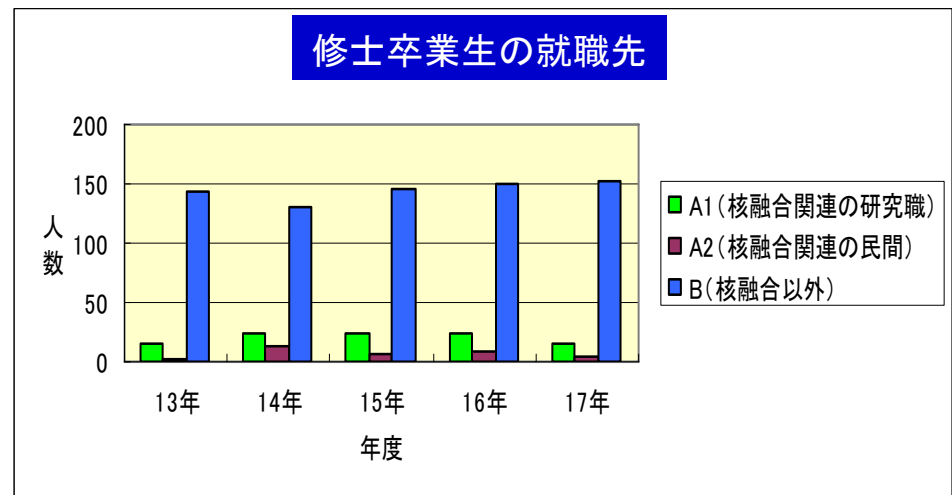


- ・PDが増えている
- ・4割以上が核融合以外の分野から核融合分野に参入

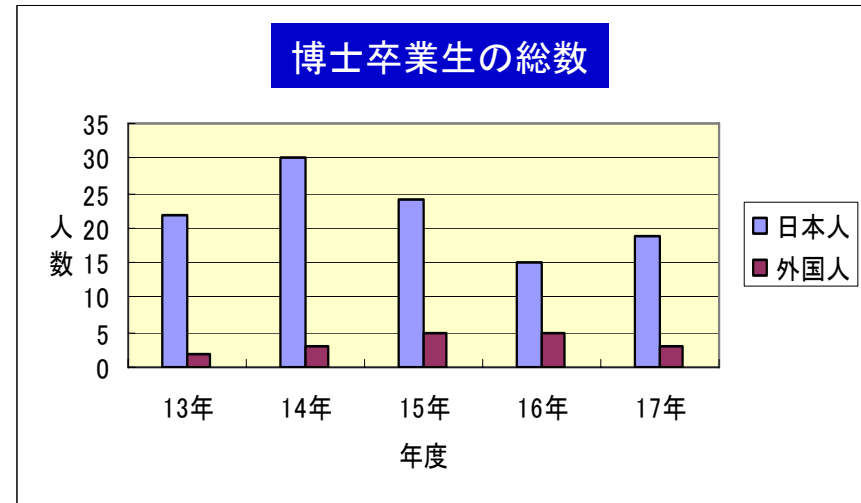
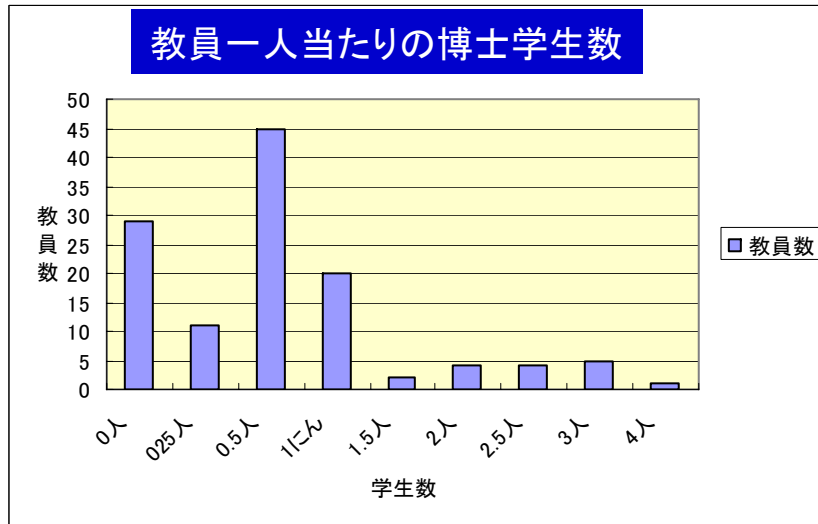
# 大学院生の動向(修士課程)



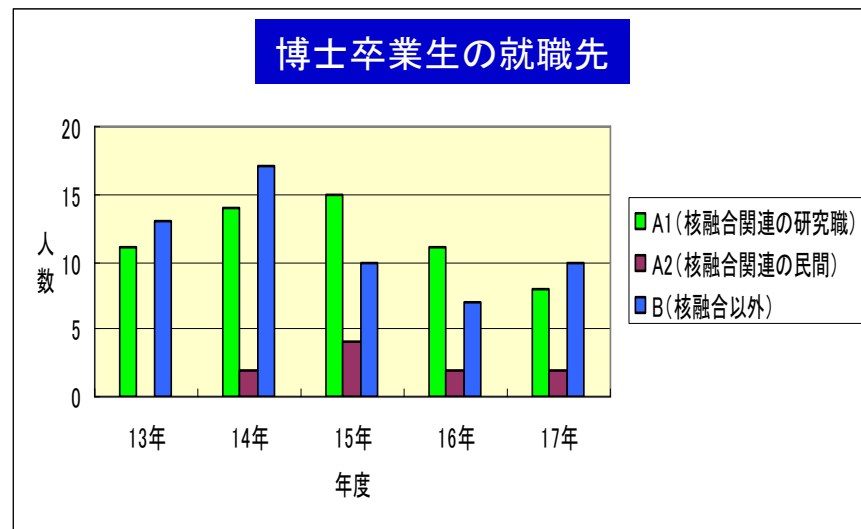
- ・教員一人当たり2.5~3人程度の修士学生を教育している。
- ・修士卒業生総数は飽和傾向にある。
- ・修士の就職先は主に核融合以外の分野である。



# 大学院生の動向(博士課程)

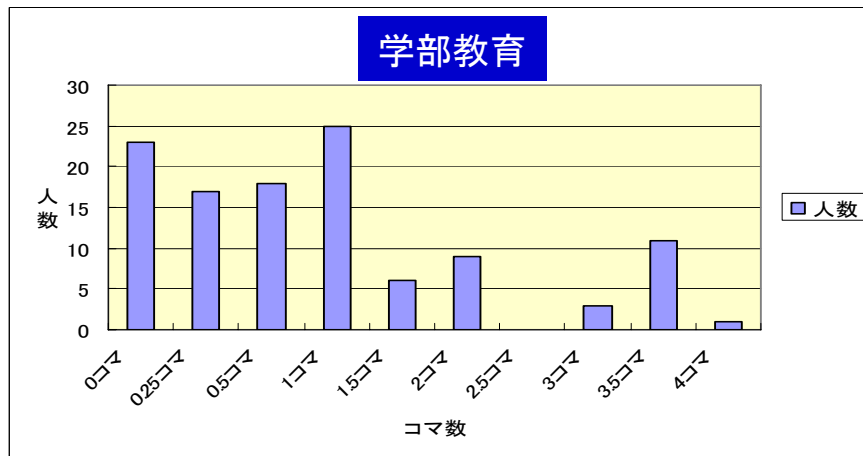


- ・教員一人当たり0.5~1人程度の博士学生を教育している。
- ・修士学生数と博士学生数の比は6.5:1であり、修士学生の6~7人に1人が博士課程に進学。
- ・博士卒業生総数は減少傾向にある。
- ・博士の約半数は核融合以外の分野に就職している。
- ・核融合関連の民間への就職が少ない。

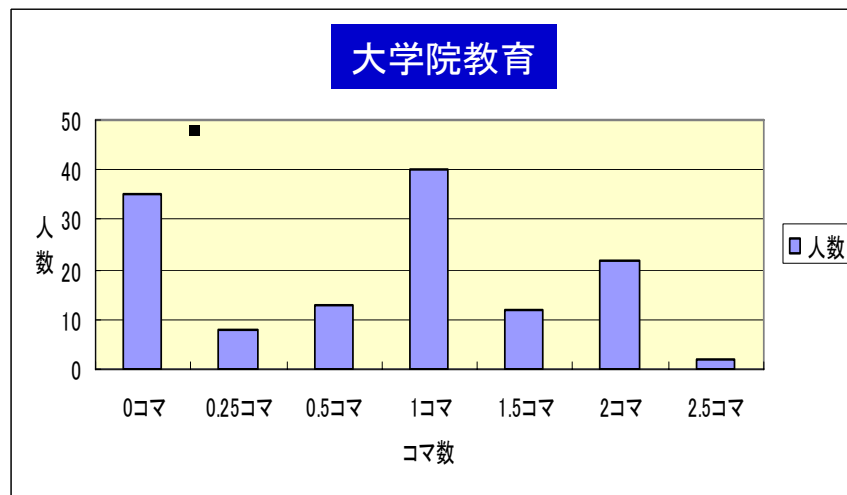
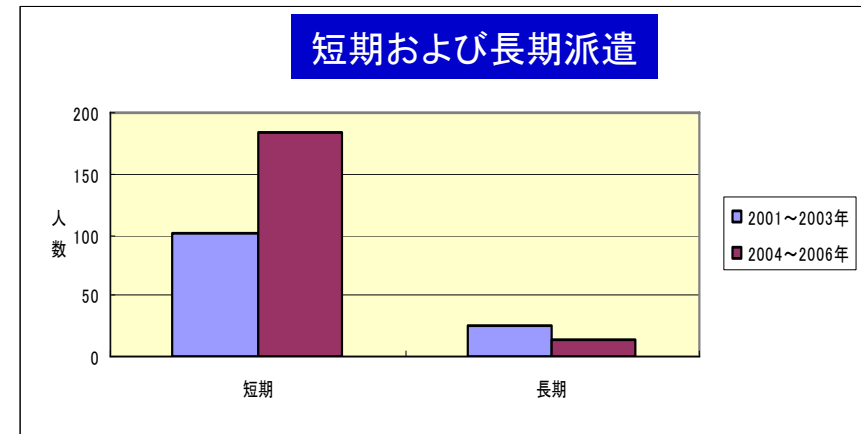


# 大学での教育動向

## 教員一人当たりの核融合関連の授業コマ数

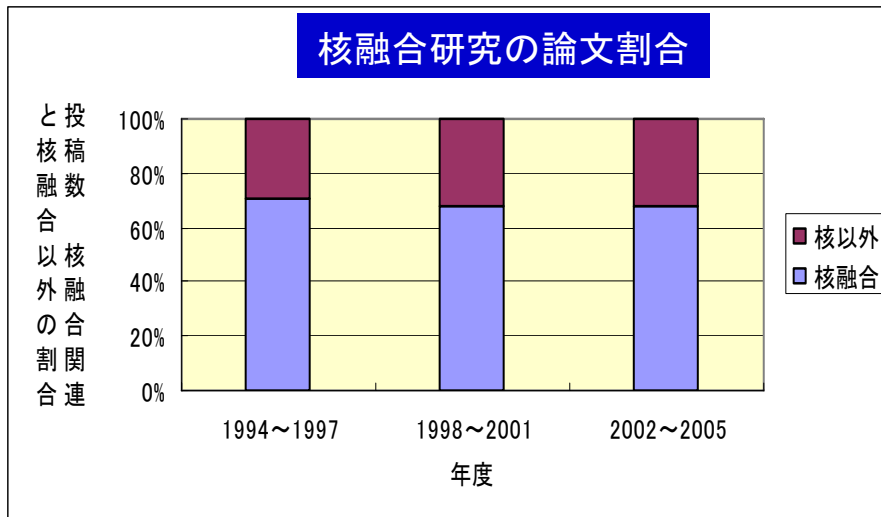
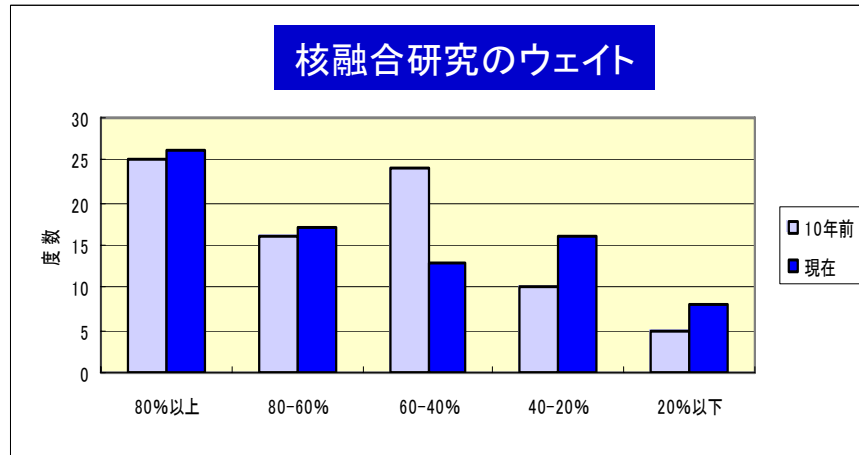


## 学生の海外派遣



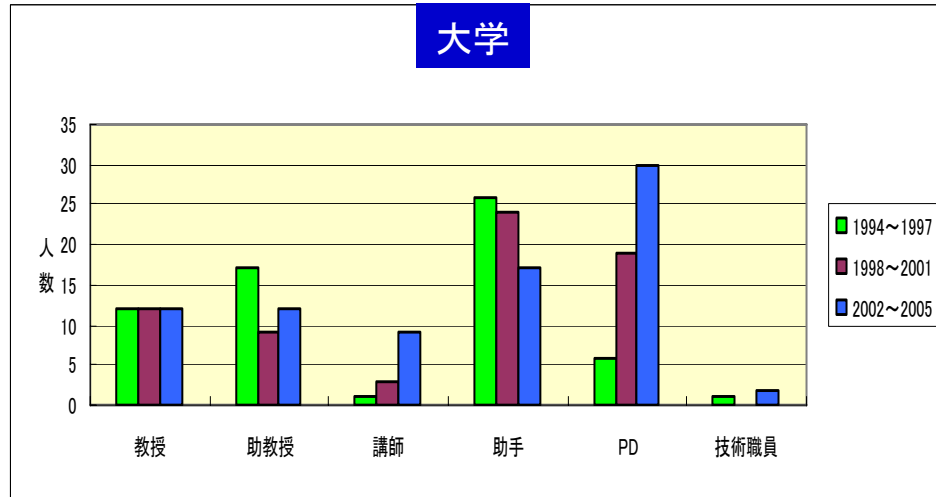
- ・教員1人当たりの核融合関連の授業は、学部においては1コマ以下が多い。大学院においても、1コマ程度である
- ・学生の短期の海外派遣は増えているが、長期出張は減少傾向にある。
- ・学生の海外渡航費の工面が難しいとの意見が多かった。

# 大学での核融合研究の動向



- ・核融合研究に対するウェイトは10年前に比べて、やや低くなっている。
- ・核融合以外の分野に関する論文がやや増大の傾向になっている。

# 核融合界の採用実態



- ・大学、核融合科学研究所、日本原子力研究開発機構、ともにPDの採用数が大幅に伸びている。
- ・大学等の教授、助教授、助手や原子力機構の職員の採用は横ばい状態である。

